

日本農業遺産「琵琶湖システム」とあったけれど、

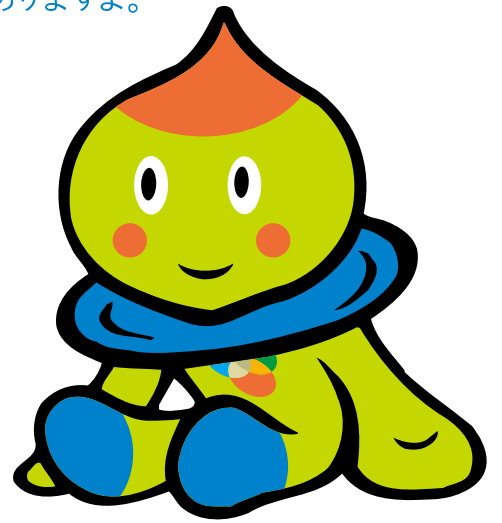
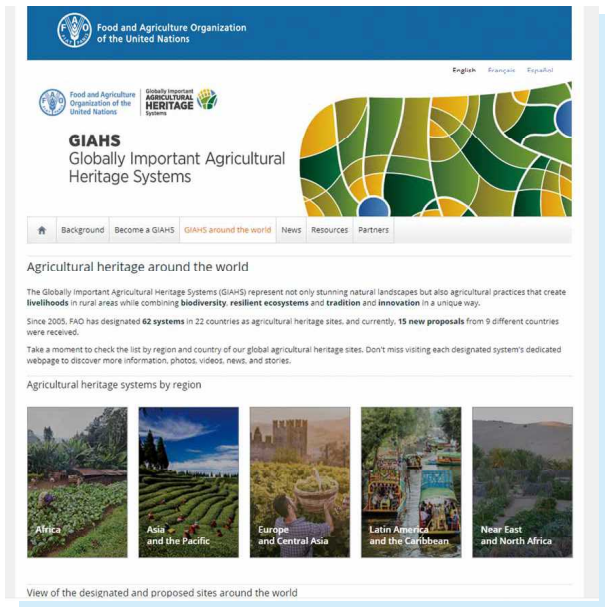
のうぎょういさん

農業遺産って何？



「農業遺産」は、持続的な農林水産業の仕組みを認定する制度です。

その地域ならではの文化、景観、生物多様性を育みながら、食べ物を届け続けている仕組みに光を当てて、みんなに^{おうえん}応援してもらうための制度なんです。「世界農業遺産」と「日本農業遺産」がありますよ。



◀ 世界農業遺産 (GIAHS) のウェブサイト (FAO ホームページ)



「世界農業遺産」と「世界遺産」、どこが^{ちが}違うの？



次のような違いがあるんですよ。

| | 世界農業遺産 | 世界遺産 |
|--------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 認定の対象 | 人と自然との関係や食料生産の仕組み(システム) | 形あるもの (遺跡 ^{いせき} や地形など) |
| 認定する機関 | 国際連合 ^{しよくりょう} 食糧農業機関 (FAO) | 国際連合 教育科学文化機関 (ユネスコ) |

どんなものが農業遺産に認められるの？



農業遺産という名前には、漁業も林業も含まれています。例えば滋賀県の近くでは次のようなシステムが認定されています。

世界農業遺産

(瀬張り網 写真提供: 岐阜県)



清流長良川の鮎一里川における人と鮎のつながりー (岐阜県)

(梅林、みつばち 写真提供: 和歌山県)



みなべ・田辺の梅システム (和歌山県)

日本農業遺産…日本の農林水産省が認定します

(英虞湾 写真提供: 伊勢志摩国立公園協会)



鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業
ー持続的漁業を実現する里海システムー (三重県)

(熊野灘に面したヒノキ林、尾鷲ヒノキの丸太 写真提供: 三重県)

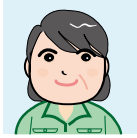


急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業 (三重県)



「世界農業遺産」は世界の22か国の62地域で、また「日本農業遺産」は国内22地域で認定されています(令和3年3月現在)。

どうすれば「世界農業遺産」に認められるの？

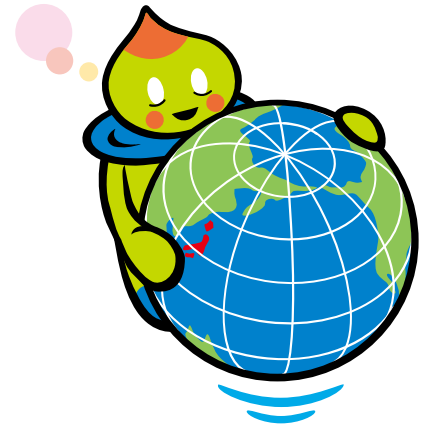


国連食糧農業機関（FAO）の専門家委員が次のような項目についてチェックを行います。厳しい審査に合格する必要があります。

- 農林水産業の営み
- 農林水産業と関連する生物多様性や景観、伝統的な技術や文化の継承など



SDGs の達成につながるかどうかも問われます。「世界農業遺産」は国連の中で、SDGs の目標達成を支える制度としても位置づけられているんですよ。



そもそも SDGs って何？



SDGs は国連で決められた、世界共通の目標です。**Sustainable Development Goals** の略称で、「持続可能な開発目標」という意味なんです。持続可能でよりよい世界を実現するために、2030 年に向けて **17** の目標と **169** のターゲットを決めているんですよ。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





滋賀にも農業遺産があるの？ 「琵琶湖システム」ってどんなもの？



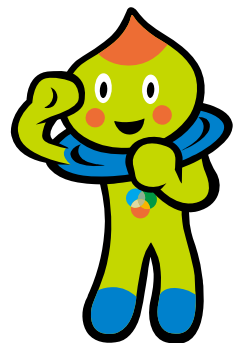
「森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす『琵琶湖システム』が「日本農業遺産」に認定されています。長い歴史をもつ古代湖（琵琶湖）のまわりで、そこにしかない生きもの（固有種）をはじめとしたさまざまな自然と農林水産業のつながりや、人々の努力を「琵琶湖システム」と呼んでいるんですよ。



例えば、次のようなものが含まれています。

- ・琵琶湖の恵みをみんなに届け続けている伝統的な琵琶湖漁業
- ・多様な生きものを育み人々の暮らしを支えてきた湖岸のヨシ帯や田んぼ
- ・洪水や渇水の被害を減らす森林の保全
- ・琵琶湖の恵みをおいしくいただく食文化や祭礼 など

この「琵琶湖システム」は、いま、「世界農業遺産」の認定に向けて審査を受けています。ぜひ応援してくださいね！





琵琶湖には、どんな 伝統漁法があるの？



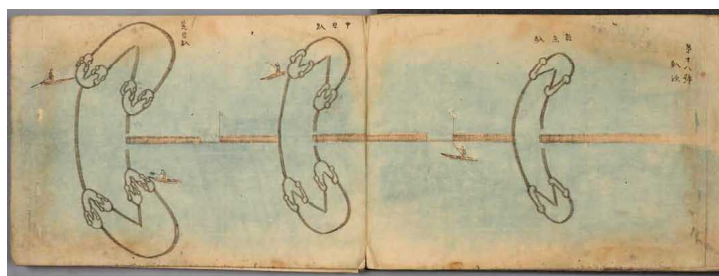
エリ漁が代表的です。琵琶湖に矢印のような形に杭が並んでいるのを見たことがありますか？これが琵琶湖で営まれてきた定置網「エリ」漁です。古くは1500年ほど前の遺跡が見つかっていて、他にも和歌に詠まれたり、古文書に記されたりしています。

エリ漁は、魚が自分で入ってくるのを待つ漁法で、もともと産卵のために岸に近づいてくる魚をねらっていたんです。かつては、内湖や入り江にも数多く設置されていたほか、数百年前には、沖に向かって1000mを超えるエリもあったんですよ。

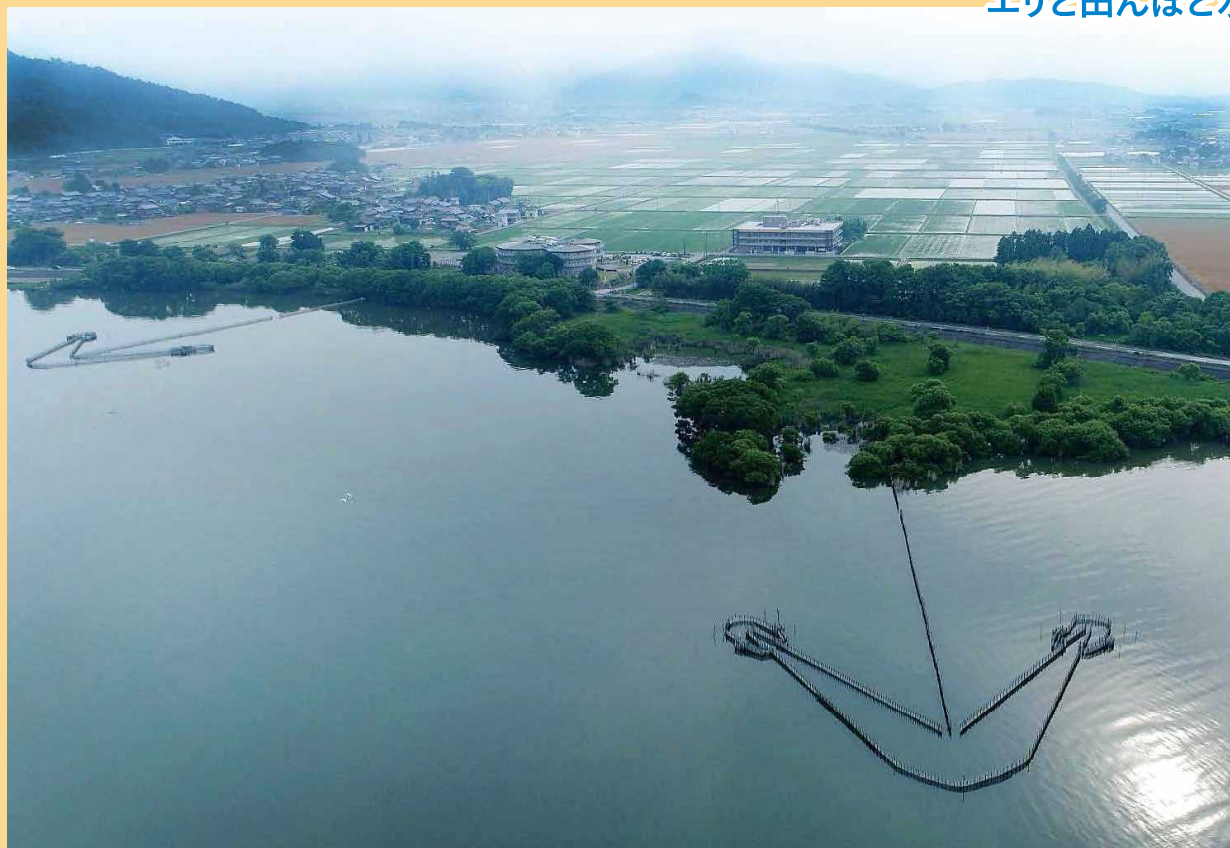


地形や風向きによって魚の入りやすさが違うので、漁師さんたちは長年の経験からエリを設置する場所を工夫しています。

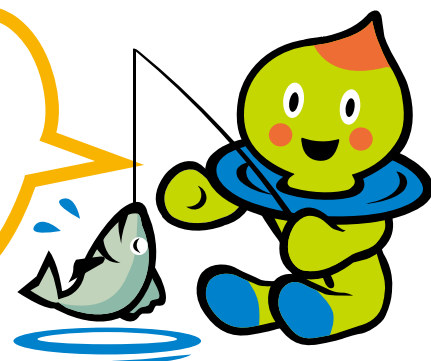
「入り」という言い方が「エリ」に変わったとも言われていて、「鰯」という漢字（国字）もあるんですよ。



▲ 100年以上前のエリの絵図（近江水産図譜）



漁師さんは、自由に魚を獲っているの？



様々なルールを決めて、琵琶湖の恵みである魚を大切にしています。例えば、

- ・漁をしない時期を決める
- ・産卵できる大きさになる前の小さな魚はとらない
- ・灯をつけて魚を集めることを禁止
- ・エリの大きさを制限する

これらは、これからもみんなが魚を食べ続けられるようにするための工夫でもあるんです。



もともとは、長い歴史のなかでたくさんの争いごとがあり、そのなかで、いつ、どこで、だれが、どんな漁業をするのか、ルールが決められてきました。今では魚を守るためにもルールがつけられているんですよ。



◀ 100年以上前のエリ漁の免許申請（網エリと簀エリの併設型で網目のサイズも書かれています）



琵琶湖の魚は どこで産卵するの？

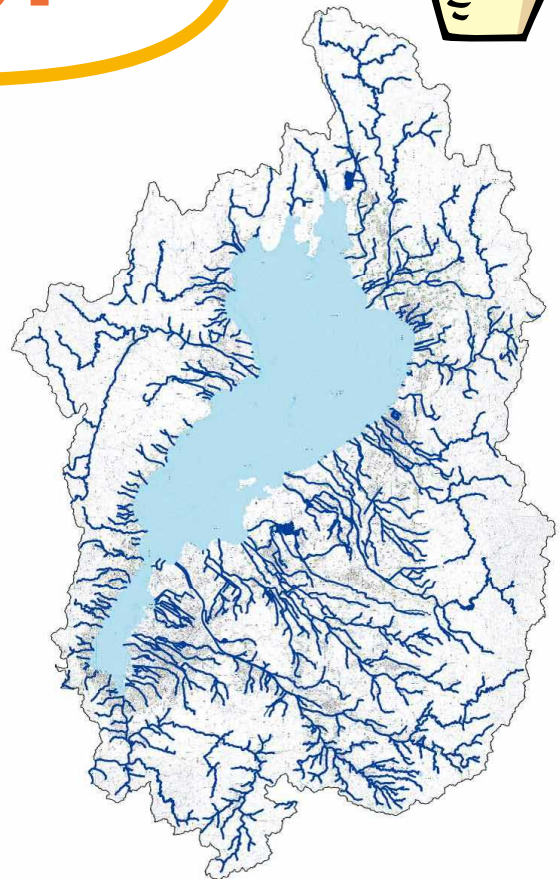


湖岸や内湖に寄ってきたり、田んぼや川に上って産卵するんですよ。

川をさかのぼって産卵する魚の代表はビワマス。サケが海から川に上がってくるように、同じサケ科のビワマスは、琵琶湖から流入河川をさかのぼるんです。



コアユやウグイなども、琵琶湖から川に上って産卵するんですよ。



琵琶湖の水脈図▶





琵琶湖から田んぼに やってくる魚がいるのは、なぜ？



主に卵を生むためにやってきます。田植え後の田んぼは、水が温かく、餌が豊富で、天敵も少ないので、そこで生まれた多くの稚魚が早く育つこともできるんです。

琵琶湖周辺の田んぼで産卵しているのは、フナやナマズなど。かつて人々は田んぼに上がってきた魚を捕まえて、それを食べていたこともあるんです(「オカズトリ」と呼ばれていました)。



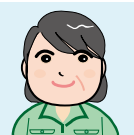
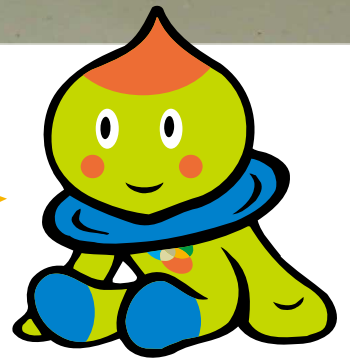
でも、魚が入れる田んぼは減ってしまいました。湖辺の泥田ではお米作りがたいへんな重労働だったので、排水をよくするために水路を深くしたら、魚が田んぼに上られなくなってしまったんです。でも今は、多くの地域で魚が田んぼに入れるように工夫しています。



▲ 水路をさかのぼるフナ(一部加工:目印の白い円)



田んぼには何種類の生きものがあるの？



日本の田んぼとその周りから、6,000種以上の生きものが見つっています。

田んぼにすむ生きもの多くは、もともとは湖のまわりにあった湿地や、川が増水したときにできる水たまりのような場所でくらしていたんです。



人が田んぼでお米をつくることで、季節によって環境が大きく変わり、また周辺に水路やため池などの様々な水環境が維持されるので、それぞれの環境に適した生きものが多くすむようになったんです。

でも、中にはやっぱり田んぼの環境になじめなくて、いなくなってしまった生きものもいると考えられています。



琵琶湖から上ってくるフナ・ナマズや、森から下りてくるアカガエル・ヤマトサンショウウオのように、産卵のためにやってくる生きものも多いんですよ。



土の中の微生物や、害虫を食べる益虫の働きなどは、お米作りなど農業に必要なもので、「生態系サービス」と呼ばれているんです。



▲ヤマトサンショウウオ

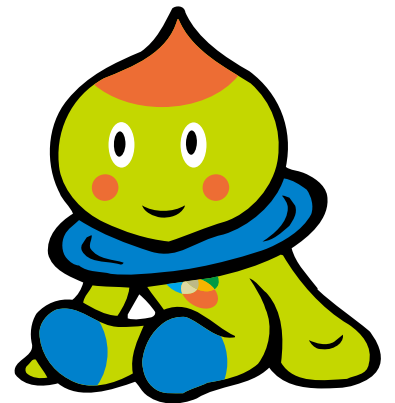
▲ニホンアカガエル

写真提供：いずれも金尾滋史



何をしているの？

世界では、農業が環境に大きな負荷を与えていることも多いと聞くけれど、琵琶湖の水質や生態系を守ることと農業は、両立できるの？



多くの農家の方が、固有種がすむ琵琶湖の環境に配慮しながら、私たちが食べるお米を生産し続けています。

滋賀県では、農薬や化学肥料を減らして琵琶湖の環境を守る「環境こだわり農業」が盛んです。この中では、田んぼからにごり水(代かきから田植え時期に発生する泥水)の流出を防いだり、家畜ふん堆肥を使う自然にやさしい取組も行われています。最近では、農薬と化学肥料を全く使わないオーガニック米の栽培も増えています。



魚が田んぼに上がるのを応援する「魚のゆりかご水田プロジェクト」などの取組も各地域で行われているんですよ。



▲環境こだわり米「みずかがみ」のパッケージ